

なすからつながるフェスタで防災意識が高まる



試着体験の様子



運転席に乗車体験



賑わう広報ブースの様子



消火訓練展示に参加



自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井一陸尉）は、11月10日（日）、那須烏山市保健センターで行われた「なすからつながるフェスタ」において、東部方面特科連隊第2大隊（宇都宮）の支援を受け広報展を行った。「なすからつながるフェスタ」は、人と人、人と地域がつながることで、防災意識を高め、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指して開催されたイベントである。

当日は、消防をはじめ福祉団体など20の団体が車両展示や防災体験ブースで様々な体験を実施していた。自衛隊ブースにおいては、31/2トトラックと野外炊具1号を展示。来場者の多くが、興味津々に車両に乗ったり、説明を受けた。特に炊事車に皮むき器や裁断機が装備されていることに驚く場面も見られた。また、那須烏山市は、令和元年の台風19号の災害において、入浴支援などで自衛隊が災害派遣されたこともあり、当時の自衛隊の活動を振り返り「あのときは、お世話になりました」と話す来場者も見受けられた。

大田原地域事務所は「今後も、地域の防災意識を高める活動に参加し、自衛隊の活動を多くの人に知ってもらい、理解の深化を図っていく」としている。